

日本原子力学会「2016年秋の大会」福島関連企画セッション

総合講演・報告

[PL1D] 東京電力ホールディングス株式会社〔東芝、鹿島建設、清水建設共催〕
福島第一原子力発電所使用済燃料プールからの燃料取り出しに向けた取り組みについて
(9月7日(水) 13:00~14:30, D会場) 座長(東電HD) 高山 拓治

- | | |
|--------------------------------------------|--------------|
| (1) 各号機 プール燃料取り出しに向けた全体計画 | (東電HD) 松岡 一平 |
| (2) 3号機 オペフロ大型ガレキ撤去、除染、遮へい体設置 | (鹿島建設) 井上 隆司 |
| (3) 3号機 有人作業エリアの線量率評価 | (東芝) 白井 啓介 |
| (4) 3号機 オペフロにおける γ 線スペクトル評価及び線量測定結果 | (東電HD) 向田 直樹 |
| (5) 3号機 カバーの設計および施工計画 | (鹿島建設) 松尾 一平 |
| (6) 3号機 燃料取扱設備等の設計および施工計画 | (東芝) 篠崎 史人 |
| (7) 3号機 燃料取り出しに向けた準備状況 | (東電HD) 山口 貫太 |
| (8) 1号機 建屋カバー解体における遠隔誘導システム、ガレキ吸引装置等の開発 | (清水建設) 黒澤 到 |

東京電力ホールディングスは福島第一原子力発電所の廃炉に向けて、政府および協力企業と共に、使用済燃料プールからの燃料の取り出し(1~4号機)、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器からの燃料デブリの取り出し(1~3号機)といった前例のない課題に取り組んでいる。本セッションでは、廃炉作業の取り組みの中からプール燃料取り出しの取り組みについて紹介する。始めに各号機のプール燃料取り出しの全体計画について説明し、プール燃料取り出しに関わる作業を実施している1号機および3号機を事例に挙げて具体的に説明する。

部会・連絡会セッション

[PL2K] 社会・環境部会

平成27年度 社会・環境部会賞 受賞業績の紹介

(9月8日(木) 13:00~14:30, K会場) 座長(PONPO) 諸葛 宗男

- | | |
|-----------------------------------------------|--------------|
| (1) 福島原子力事故炉心溶融・水素爆発はどう起こったのか | (デコミ研) 石川 迪夫 |
| (2) 福島第一原子力発電所事故に伴う地域住民のニーズに応えるリスクコミュニケーション活動 | (JAEA) 菖蒲 順子 |
| (3) 原子力青年ネットワーク連絡会の活動 | (YGN) 西山 潤 |

社会・環境部会は原子力と社会との接点において研究/活動した成果のうち、優れたものを部会賞として表彰している。今回は昨年度の表彰対象者のうち、下記の3名にその業績について紹介してもらう。

・石川迪夫(デコミ研会長)氏は『考証 福島原子力事故炉心溶融・水素爆発はどう起こったか』を著し事故における炉心挙動を分かりやすく解説した。

・菖蒲順子氏(JAEA)を含む6名は、福島第一事故に伴う地域住民の不安を受け止め、そのニーズに応えるリスクコミュニケーション活動を行った。

・西山潤氏(東工大)はYGNの会長としてリーダーシップを発揮し、若手研究者の国際的な会議(IYNC)で福島特別セッションを企画する等、3年余にわたり優れた活動を行ってきた。

[PL3J] 保健物理・環境科学部会

福島環境影響・健康影響研究の新たな展開

(9月9日(金) 13:00~14:30, J会場) 座長(名大) 山澤 弘実

- (1) 過去5年間の研究の経緯 (JAEA) 斎藤 公明
- (2) 今後の環境影響研究に何が必要か (京大) 高橋 知之
- (3) 今後の健康影響研究に何が必要か (長崎大) 松田 尚樹

[PL3C] 水化学部会 [バックエンド部会, 核燃料部会共催]

福島第一原子力発電所廃止措置の現状と今後の取り組み

(9月9日(金) 13:00~14:30, C会場) 座長(東芝) 高木 純一

- (1) 汚染水対策の状況 (東電HD) 白木 洋也
- (2) サブドレン水処理の状況 (日立GE) 三宅 俊介
- (3) 圧力容器/格納容器向け防錆剤の多核種除去設備への影響評価 (IRID, 東芝) 田嶋 直樹
- (4) 福島第一原発事故廃棄物の処理・処分技術開発 (IRID, JAEA) 宮本 泰明
- (5) 燃料デブリ性状把握研究の概要 (IRID, JAEA) 高野 公秀

福島第一原子力発電所の廃止措置では、2020年の建屋内滞留水の処理完了をめざし、様々な性質の汚染水を、複数の汚染水処理装置を用いて処理を続けている。今後、汚染水処理技術の高度化を図るとともに、事故によって発生したガレキや汚染水処理に伴い発生した廃棄物などの処理・処分、燃料デブリの取出しのための技術開発が必要となる。本セッションは水化学部会、バックエンド部会、核燃料部会との共催として、各分野の有識者から、汚染水処理を含む廃止措置の現状とともに、廃棄物処理・性状やデブリ性状把握などの技術開発の取り組みの状況について講演をいただき、会場の参加者とディスカッションする。

委員会セッション

[PL3M] 倫理委員会

原子力の専門家としての使命と社会との係わり方 —福島事故を振り返り、改めて研究者・技術者としての倫理について考える—

(9月9日(金) 13:00~14:30, M会場) 座長(JAEA) 大場 恭子

- (1) 福島原発事故非常事態とその後の対応 —原子力災害専門家の反省 (長崎大) 山下 俊一
- (2) ディスカッション

ご自身も被曝二世でいらっしゃる、内分泌・甲状腺、放射線医療科学を専門となさる山下俊一先生は、チェルノブイリ発電所の事故後に何度も現地に足を運ばれ、小児甲状腺癌の調査および治療に当たられた。その豊富なご経験および研究者としての信念に基づかれ、福島事故直後から現在に至るまで、積極的にご活動されている。しかしながら、先生のご発言が一部の国民の反発を受けたのもまた事実であった。

しかし、そうした状況に怯むことなく、科学の確信をもって福島での活動を続けられ、今現在も自らの信念に従って活動なさっている山下先生から、①研究者とはどうあるべきか(研究者の責任)、②強い使命感(意思)を支えたものはなにか、③今後への思い(一般者への情報開示等に対する教訓やさらなる活動、原子力学会への期待について)をお話しいただき、改めて原子力学会会員が社会の中でどのように立ち振る舞うべきかについて、フロアの皆さんも交えたディスカッションを行う。